たびのゆくさきのどけし

京のすきまを活用する
スローコンパクトツーリズム

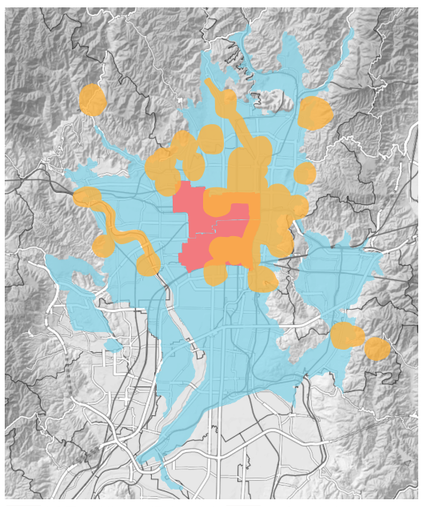
今や名実ともに世界の古都となった京都。古くからの文化や伝統のみならず、最先端の技術やファッションまでもが集積している。特に近年は国内のみならず外国からの観光客も急増している。

一方、まちが繁栄するのはよろこばしいが、どこか気ぜわしく感じる人も多いかもしれない。

その中にあって、時の流れに取り残されてしまっている人もいるのではないだろうか。例えば要介護高齢者をはじめとして、サポートを必要とする人々はどうであろうか。彼らがまちを旅する姿を見かけるのはまれである。

まちにひそむ"京のすきま"を活かし、旅行者や住民がのんびりゆっくりすごせる京の"行く先"について考えた。

すきま地　京のすきま地域の活用



近景デザイン保全区域　中心市街地
京のすきま地域

現在の京都市では、一部の観光地や中心市街地に人口の流入が偏っている状態といえる。

図は、市街化区域において、有名観光地とその周辺を近景デザイン保全区域（京都市眺望景観創生条例）で表し、中心市街地を中京区、下京区の範囲でもって表したものである。

それ以外の部分を京のすきま地域として表した。そして、こうした地域は空き家が多いのが現状である。また、用途地域や地域地区の関係で、商業施設や宿泊施設が設置できない、営業期間が限定されるなどで住宅以外の活用法がない場所も多い。

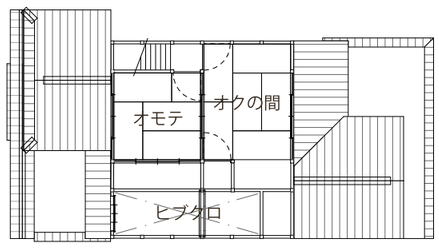
裏返してみれば、混雑をさけてのんびりゆっくりすごすことができて、なおかつ未利用の資源が豊富に存在する地域ともいえる。

すきま宿　空き京町家を活用する サポート付き宿泊施設の創設

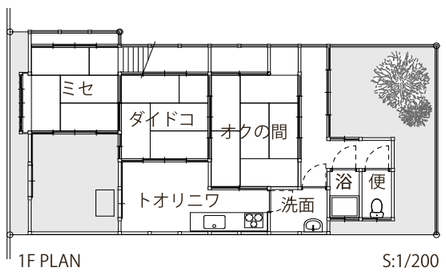
この提案の核となる施設である。在宅介護サービスのように地域のヘルパーステーションから介護スタッフが巡回に訪れる。また、緊急時の呼出に対応する。

CASE STUDY

京のすきま地域において京町家をサポート付き宿泊施設へ改修する。郊外に多くみられる居住を主とした大正時代の仕舞屋造である。



2F PLAN



1F PLAN　S:1/200

京町家であることの利点

・長い歴史の中で培われてきた京都文化の集大成であり、外出が困難な人でも居ながらにして特別な空間を体感できる。

・ホテルと異なり、他の客に気兼ねなくすごせる。

・モジュールが、柱面々955mmの京間のため、柱芯々910mmの現代住宅に比べてゆったりとした空間構成となっており、移動や移乗の円滑化が図れる。

改善の必要な点と対処方法

・段差の存在。特に２階への移動が困難。
➡吹抜けとなっているトオリニワのスペースを利用して、ホームエレベーターを設置する。
資金面や構造上難しい場合は、階段を緩勾配に改修する。

・浴室や便所が非常に狭い。
➡浴室は、広くて安全な地域の資源を活用する。そのぶん割り切って便所のスペースを広くする。

・住居専用地域では簡易宿所の営業許可が下りない。民泊の場合は年間３か月の営業に限定される。
➡地域の介護事業所が運営に参画することや、地域の各事業者と連携することで、地域住民の理解を得る。
一年を通しての宿泊営業を可能とする。

おもな利用者像

要介護高齢者とその家族
高齢者自身の余暇はもちろん、普段在宅介護をしている家族のレスパイトケア（休息支援）を促進する。

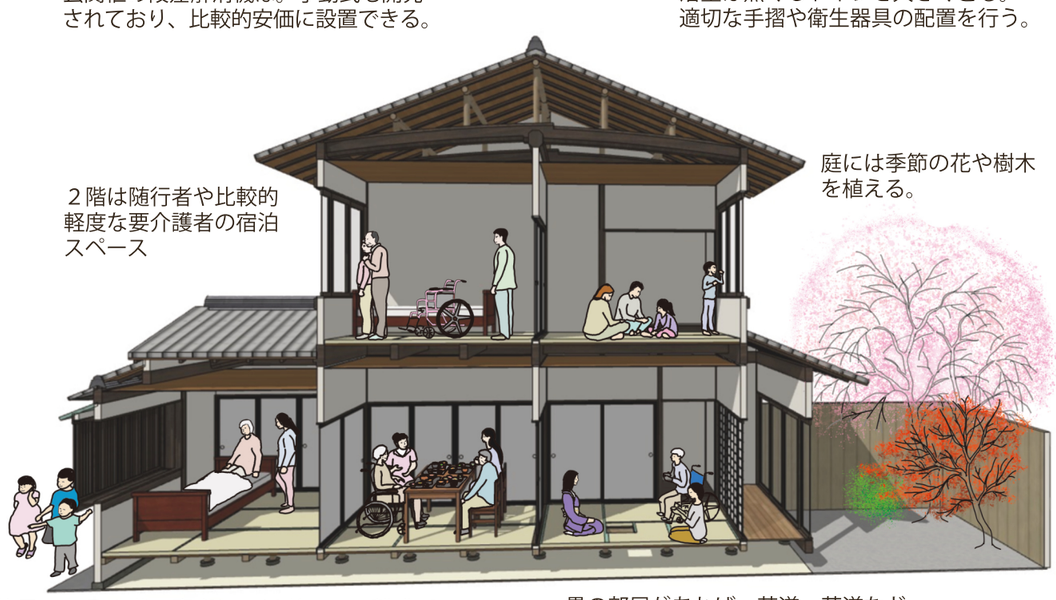
特別支援学校の修学旅行
利用者の年齢は問わない。
若年者が安心して民家宿泊体験をできる場とする。

老人ホームやグループホームの旅行
人生２回目の京都修学旅行は、町家へ宿泊。介護施設の職員も帯同して、シームレスな対応を行う。

元より２階の床がなく、１階の基礎底盤もないトオリニワの吹抜け部分は、構造躯体に負担をかけずエレベーターを設置できる可能性がある。

玄関框の段差解消機は。手動式も開発されており、比較的安価に設置できる。

浴室は無くしトイレを大きくとる。適切な手摺や衛生器具の配置を行う。



２階は随行者や比較的軽度な要介護者の宿泊スペース

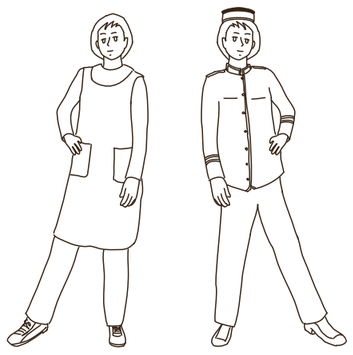
庭には季節の花や樹木を植える。

格子のある１階の窓際は、ほどよい距離感で外の雰囲気をうかがえる場所。
外出の困難な人むけの特等席。

畳の部屋があれば、茶道、華道など様々な伝統文化の体験室となる。

すきま援

地域の介護事業所が利用者サポートと宿泊施設の運営を担う。
介護技術とホテルの接客技術 二刀流のホスピタリティを提供する。

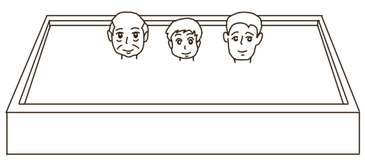


介護技術および接客技術を相互に高めあい、地域の介護力の向上につなげる。収益事業とすることで、零細規模の多い地域の介護事業所が、持続的な経営を行えるようにする。

すきま湯

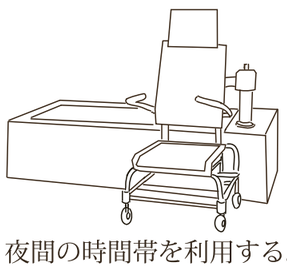
少なくはなったが、銭湯は京都市内に約９０か所存在する。
重度の要介護者は、より安全に配慮されたデイサービスを利用する。

銭湯の営業時間
15:00〜2:00



午前中〜昼の時間帯を利用し、広い風呂でゆったり入浴する。

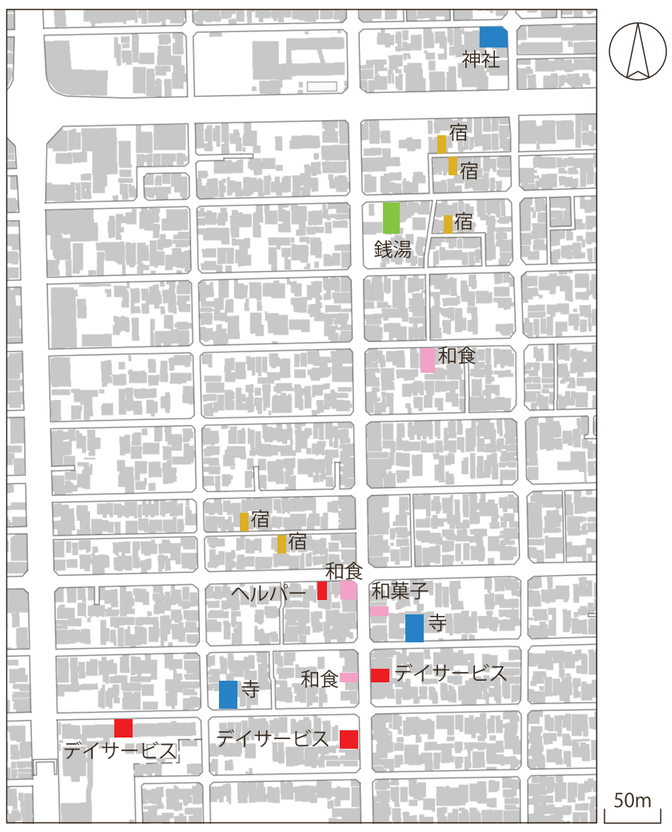
デイサービスの営業時間
9:00〜17:00



夜間の時間帯を利用する。

すきま時間を活用することで、銭湯においても新たな需要を創出する。
安全に配慮した手摺を導入するなどして旧来の利用客の安定確保も図る。

京都には生活機能や文化がコンパクトに集積されているまちが多い。サポート付き宿泊施設は、地域の資源を大いに活用する。旅行者は自らが主体的に移動できる範囲で、様々な体験をする。



古くからの商店街と閑静な住宅街が混在する地域の例
サポート付き宿泊施設の位置は、想定である。

すきま食

本格的な和食や和菓子の店がまちごとに存在する。
仕出しの文化で本格的な京料理が家で楽しめる。

介護用懐石料理など新たな分野を開拓し、地域の住民に対しても質の高い配食サービスを提供する。

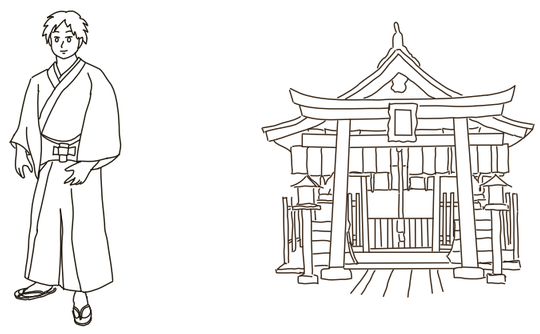
すきま文

茶道、華道、書道、香道などの伝統文化を外に出向かなくても気軽に体験できるようにする。

地域の若手茶道家、華道家などの活躍の場を広げる。

すきま景

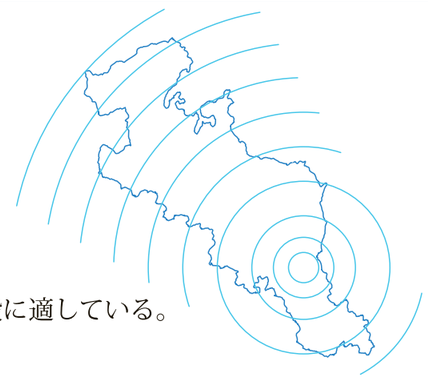
全国的に有名でなくても、地元の由緒ある寺社や景勝が至近距離にあり、気軽に参拝できる。



参拝客の増加により、歴史的建造物や行事の保存の機運を高める。

すきま先

さらに先の段階として、京都府全域の京のすきまを活用する。



京都市内を離れてもいたるところに京文化を受け継ぐ町並みや古民家が点在する。
山間は自然豊かで市街地とは別の良さもある。また、平面的に広い家も多く、サポート付き宿泊施設に適している。
のんびりゆっくりすごせる旅の選択肢を広げて行くことで、新たな旅行者の受け入れ先を創出する。